

追加説明事項（青字：SKT バイオガスエナジー株式会社回答）

1. 現時点で作成可能なプラント運用マニュアルや運用指針を提出してほしい
（分析する項目とその測定方法および基準値）
→ 添付マニュアル概要をご参照ください。
2. ガスエンジンの周波数データを提示してほしい
→ 「説明資料」の p.10 を参照ください。使用予定エンジンの納入先で過去に低周波数の問題が生じたケースがないため、大きさの異なるエンジンのデータを参考に記載しています。
3. 開発予定地の現況の騒音測定結果（朝、昼、夕、夜間）を提示してほしい
→ 「説明資料」の p.7 を参照ください。
4. 発電施設稼働後にモニタリングを行っていく予定の項目を提示してほしい
→ 添付マニュアル概要をご参照ください。
5. 牛糞や食品残渣の搬入量（1日および1回あたり）、1日あたりの搬入回数、搬入時刻、搬入経路および搬入車両に係る計画を提示してほしい
→ 「説明資料」の p.4-6 を参照ください
6. 消化液や乾燥たい肥等の1日あたりの搬出回数、搬出経路、搬出時間を提示してほしい
→ 「説明資料」の p.4-6 を参照ください。
7. 地元（市内及び県内）企業からの食品残渣調達計画（何年以内に何%を目指す、など数値目標、可能であれば検討している仕入先など）を提示してほしい
→ プラント商業運転から2-3年で三重県からの調達割合が47%になるように目指しております。「説明資料」の p.3 を参照ください。
8. ガスエンジンに係る騒音について、3台合成した騒音の距離減衰に係る計算結果を再提示してほしい
→ 「説明資料」の p.8 を参照ください。
9. 食品残渣や牛糞の輸送コストおよび買取価格にかかる事業収支計画を提示してほしい
→ 「説明資料」の p.2 を参照ください。
10. 地下水の干上がり、地震などによる供給と残渣排出の中断に対する対策として、予備タンクなどのリスク緩衝施設を設置することが望ましい。しかしながら敷地内にそのような施設を作ることが難しいなかで、どのように中断のリスクに対応するのか明示してほしい
→ 地下水は水量が確保できる場所を使用するため干上がる可能性は低いですが、万

別添

一地下水の供給が停止しても、プラントの運転にはリサイクル水を使用するためプラントが停止することはありません。

地震などで原料供給と残渣排出が中断した場合は、インプット、アウトプット両方を停止するため、残渣が増えていくことはありません。このため、現在計画している以上の予備貯蔵設備は必要がありません。

また、原料供給が停止している間は、低負荷での運転を継続して生物が死滅しないようにするため、2週間程度は完全に機能を維持することはできます。

以上